

美瑛岳コース概況

美瑛岳へのアプローチはいくつかあるが、今回は道道 966 号十勝岳温泉美瑛線(十勝岳スカイライン)の美瑛町にある標高 930m の望岳台からスタートする。現在も活発に火山活動する十勝岳は、噴火警戒レベル1である。

望岳台には、2016 年に十勝岳望岳台防災シェルターが設置された。突発的な噴火による噴石から身を守るための緊急避難施設(避難シェルター)で、非常品や食料などを備蓄しているほか、非常用発電機も設置されており、即時救出が困難な場合には、一時滞在施設としての機能を備えている。トイレ、避難スペースは 24 時間開放しており、大型モニターによる火山の監視映像や火山活動・気象情報等の表示による情報発信も行われているが、冬期間は道道 966 号も併せて閉鎖されている。

望岳台からは、十勝岳連峰を見渡すことができる。南から富良野岳、三峰山、上富良野岳、上ホロカメットク山、十勝岳、美瑛岳、美瑛富士、石垣山、ベベツ岳、オプタテシケ山とつづく山容は壮観である。

登山道は、火山灰と火山れきの緩やかで平坦な斜面が続くが、死者・行方不明者 144 名を出した 1926 年 5 月 24 日の噴火時の大規模な泥流のあとでもある。植生は少しずつ回復しており、ハイマツ・ミヤマハンノキ、6月から8月にかけては、イソツツジ、マルバシモツケ、ウラジロタデ、シラタマノキ、イワブクロなどの高山植物もところどころに見られる。

十勝岳避難小屋の直下の 1258m にある分岐を東に進み小さな硫黄沢を渡り尾根を少し登ると、雲ノ平のトラバースとなる。植生は豊かで、前出のものはもちろん、メアカンキンバイ、ミヤマキンバイ、ミネヤナギ、クロウスゴ、コケモモ、エゾノツガザクラ、アオノツガザクラ、ミネズオウ、イワウメなど時期によって多くの高山植物が見られる。また、ナキウサギ、キタキツネ、ギンザンマシコなども見ることもできるかもしれないが、ヒグマにも注意を払おう。

雲ノ平は十勝岳の摺鉢火口、昭和火口などの中腹の斜面で、斜面のトラバースは 1500m の高度を保ちながら十勝岳を回り込む。斜面の奥からは爆裂火口をもつ美瑛岳が姿を現す。爆裂火口から続くポンピ沢にある勝瑛ノ滝は落差が 20m ありアバレ川へ下る。トラバースの終わりには、その支流である函状の沢がある。この沢は深くえぐれており、沢底まで鉄製のハシゴが設置されているが慎重に通過してほしい。沢を登りきり右手にエゾコザクラなどのお花畑を見ながら少し下ると、よい水場でもあるポンピ沢となる。ここで一息入れ、沢を渡ると崖混じりの急登が待っている。ミヤマハンノキやウコンウツギ、ウラジロナナカマド、タカネナナカマドなどのかん木の斜面である。登り切ると平坦となりしばらく進むと視界が広がり、美瑛富士との分岐に出る。この沢地形には遅くまで雪渓が残りアバレ川に下る。

分岐を右に折れ、美瑛岳の主稜線に取り付く。ここからは一気に高山帯となり、雪渓が溶けたあとから次々と高山植物が咲くお花畑が頂上まで続く。前出以外では、コメバツガザクラ、ジムカデ、イワヒゲ、イワブクロ、キバナシャクナゲ、コガネギク、初秋にはエゾオヤマノリンドウなどが咲き誇る。登山道は爆裂火口沿いを登るので、右手に雲ノ平から続くトラバース道と函状の沢、火口越しに十勝岳の豪壮な姿が眺望できる。美瑛岳山頂は爆裂火口の一角にある。火口は赤茶けた火山れきの深くえぐられた斜面でかなりの高度感がある。この先は十勝岳への縦走路となり、途中左に下ると美瑛富士とのコルへと続き、美瑛富士避難小屋からオプタテシケ山への縦走路となる。

美瑛岳は十勝岳連峰のほぼ中央に位置することもあって展望は素晴らしい。南西方向は、爆裂火口越しに木々も全くない活火山である荒々しい十勝岳、その右奥には富良野岳、さらに奥には芦別岳の夕張山地がある。十勝岳の左には独立峰のような下ホロカメットク山、さらにそのはるか向こうには、今年新たに国立公園に指定された日高山脈がある。北東方向には、アイヌ語で「槍がそこにそり立っている山」という意味をもつオプタテシケ山、右奥には百名山のトムラウシ山、左奥には大雪山系主峰旭岳をはじめとする山々を望むことができる。北にはコルを挟んですぐ近くに、平坦で意外に広い山頂をもつ美瑛富士が望まれる。

下りは来た道をもどるが、ポンピ沢への下りは、岩と急斜面に注意することと、函状の沢の通過も慎重にお願いしたい。